

令和7年度第2回石巻市総合計画推進会議 会議録

■日 時 令和7年7月3日（木） 14時～16時05分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数25名に対して13名が出席しており会議は成立

（委員1名が遅れて参加、最終的に14名が出席）

2 開会あいさつ

（副会長）

前回に引き続き、会長が所用で欠席なので、私の方で議事を進めさせていただきます。

前はコーディネートの方々の御助力と、委員の皆様の熱心なグループ討議によって、中身の濃い会議にすることができたのではないかと思います。今回は人数が少なく班が一つ減っているのですが、グループ討議を充実させて、各グループの話題、質問等を一つに絞っていただき、それを各担当課の課長方がおいでになっていますので、それについて御答弁を頂きたいというふうに考えております。

今日も長時間になりますが、よろしくお願いします。

3 議題

（1）第2次石巻市総合計画の令和6年度達成状況について

（資料3，資料4：各担当課）

【第4章 第1節～第6節】

（1班・委員）

1班からは2点あります。まず水産と農業の新規就労者について、水産の部分については、12名就業者数が増えたということで、令和3年度から延べ49人になりましたが、実際にこの方々が現在も残っているものなのか、途中でリタイアしているものなのか、総体的にどのような感じなのか、それは農業にしても同じですけども、新規就農者は3名増えていますが、それが今も根付いてやっているものなのか、その辺をお聞かせいただければと。

次に、働き手の考え方について、人手不足感が大変強いような状態になっておりますが、地元高校生の就職が134名しか入ってないところで、今後、地元を離れた大学生や専門学校生等、石巻市から離れた人材を働き手とするような取組について、どのような考え方でいるのか教えていただきたいです。

(水産課)

それでは水産業の方からお答えいたします。まず石巻市で行っております「水産業担い手育成事業」による、就業状況について御報告させていただきますと、これまで平成27年度から事業を開始し、令和6年度末までに、就業者数が総数で84名おります。その中で、離職した人の数が30名となっているため、年度6年度末現在の就業者数が54名というような実績になっております。

この中には、漁協の正組合員や準組合員になった方や、地元の消防団等に入って活躍をしている方等の話も聞いておりますので、漁業のみならず、地域へのいろいろな効果があると考えます。引き続き、水産業担い手育成事業を行ってまいりたいと考えております。

(農林課)

引き続き農業の方でございますが、農業につきましても「農業担い手育成総合支援事業」としまして、平成30年度から事業のほうを進めております。これまでの累計につきましては、雇用就農が21名、独立で就農された方が8名、新規参入といたしまして企業側で1社が農産物の栽培を開始したということで、合計で29人1社が新規で就農という形をとっていただいております。

その中で、離職者につきまして雇用就農の方が14名離職されておりますので、令和6年度末現在では15名、1社が継続して農業に従事していただいている状況でございます。

(商工課)

就職状況につきまして、確かに高校生の管内就職率、大学生の管内就職率については、昨年度よりも若干低下はしているところでございます。いかにして、地元就職をさせて活力を見いだしていくかという点になりますが、例えば、高校生対象の企業見学ツアーや、各事業者を集めて総合体育館を使つての就職説明会というところで、地元の企業を知ってもらうという事業があります。その他、制度としては他課になりますが、福祉関係ですと大学生、専門学校生で奨学金を借りた方に対する奨学金支援制度、企画部のほうで行っている定住施策に係る奨学金の支援制度であったり、東京から石巻に就職する学生に対する交通費の支援、その他、例えば石巻専修大学をはじめ、工業系のものづくり大学でのインターンシップ事業が昨年度から始まっていたり、このような事業を実施し、まず地元で就職というところを意識していただけるよう、各種事業に着手しているところでございます。

(政策企画課)

石巻市を一旦離れた方に対する就業に向けた取組について、いわゆるUターンに係る就業者確保という取組は個別での実施はありませんが、例えば、福祉関係の専門職確保ということで、奨学金支援制度を設けていたり、移住定住促進ということで、住宅取得の補助金を出していたり等、様々な相談支援事業を行っているという全体的な取組がございますので、その範囲の中にUターンの部分も入ってくると思

っております。

（2班・委員）

第5節に係る企業誘致の件について質問を行います。立地企業件数が6件ということで、この6件の具体的な場所がどこなのか教えていただきたいです。また、東松島市は企業誘致のために、用地を無料で貸し出すというメリットをつけて、企業誘致をしているという話が出ました。石巻市の場合、企業立地のためにどのような条件、メリットをつけて誘致をしているのか、お知らせいただければと思います。

（産業推進課）

6件の具体的な場所という御質問でしたが、まずこの6件の企業は新設だけではなく、既存企業が増設した場合も含めて6件となっております。そのうち新設が2件、増設が4件となっております。場所につきましては、旧石巻市内が4件、旧河北町が1件、旧河南町が1件、合計6件という状況でございます。

それから、石巻市に企業立地をした場合のメリットつまりインセンティブについてですが、石巻市では企業立地助成金というものを設けておりまして、対象業種の指定はございますが、例えば、投下固定資産に対して課せられた固定資産税額と同額を5年間交付するというもので、一旦は固定資産税を納めていただきますが、同額を市で助成するという、いわゆる免除するような形でのインセンティブの制度を設けております。

または、一定の雇用人数を確保していただいた場合に、新設については1人当たり100万円の雇用奨励助成金、増設については1人当たり20万円の助成金というような制度もございます。

それから、石巻市の他市と比べた際の課題としまして、工業用水が確保されていないという状況もございますが、上水道料金に係る助成金といった制度も設けまして、他市との格差を解消するような施策を実施し、市としては企業誘致に努めているといったような状況でございます。

（3班・委員）

7月1日から地域食事券がはじまって、非常に地域の商工の発展に寄与していると思っている次第です。

第6節の「未来の産業を担う人材の確保と育成」に関してですが、石巻専修大学の卒業生たちに、ぜひ石巻市に残って担い手になってもらいたいと思いますが、どれぐらい地域への就労支援を行うような施策があるのか、もう1つは、新規に採用された方たちが早めに辞めていくという、新聞でも話題になりましたが、そこら辺の方たちに対しどのような支援策があるのか、教えていただけたらと思います。

（商工課）

石巻専修大学の地元就職の状況というところですが、先ほどもお話ししましたとおり、数字は若干落ちているところではあります。連携事業ということで、何か一緒にできればと考えているところで、大学の先生と意見交換を行いながら進めたい

と思っております。そこでいろいろなアイデア頂きながら、いかにして、石巻市に残ってもらうかという難しい課題に対し、新たな展開も考えながら、検討させていただければと思います。

(副会長)

ありがとうございました。今の意見の中で、今後の強い要望も含まれているということを、各課でそれぞれ掌握してほしいなと思います。

【第5章 第1節～第6節】

(2班・委員)

第2節細節1について質問がございます。「学校が楽しいと感じている児童生徒の割合」について92.4%という数字が出ていて、これは喜ばしいことだと思いますが、一方でちょっと石巻市の不登校がすごく多いということもあり、この数字に違和感があるという話が班の中で出ました。これは何のアンケートなのかということ教えてほしいです。また、ふるさと子どもカレッジについて、これは質問ではないのですが、すごくいい取組なので、ぜひ今後も参加者を増やす仕組みをつくってもっとたくさんの子に参加してもらえたらいいね、というお話が出ました。

(学校教育課)

数値につきましては、全国学力状況調査の結果に基づいて出しているところでございます。不登校も多いというところで、違和感があるとお話もありましたけれども、そのような感想を持たれるっていうところもあるかな、と思っております。

訂正後

大変申し訳ございません、「学校が楽しいと感じている児童生徒の割合」につきまして、全国学力状況調査の結果と先ほど申し上げましたが、ここを訂正させていただきます。石巻市教育施策アンケートの結果ということで、訂正をお願いしたいと思います。

(生涯学習課)

ふるさと子どもカレッジの件も触れていただきましたので、説明させていただきます。令和6年度に関しまして、今回から保険の見直しをかけて、途中参加や6回目、5回目だけ行きたいというところも可能にして随時募集をかけました。友達がいなくなかなか行きたくないという子供たちが多い中、参加した子供たちを通じて口コミで広がるという効果も期待しつつ、取扱いについて改善しております。

(3班・委員)

第1節の「安全に安心して学ぶための教育環境整備の推進」について、令和6年度の主な取組や成果の中でプールの改築工事がありましたが、人から聞いた話になりますが、小学校では7月、8月になるとプールの周りがかかなり熱を帯びてやけどの危険性もあるので、なるべく早く5月あたりからプールの授業をしているということを知りました。ただ中学校については、個人的に水泳を学んでいる方もいるた

め、わざわざ中学校になってから水泳の授業は必要ないという親御さんもいらっしゃるって、中学校では水泳の授業は今やっていないみたいな話を聞きましたが、その辺についてお聞かせください。

(学校教育課)

施設設備ではないので、学校教育課でお答えしてもよろしいでしょうか。基本的に授業で水泳はやっております。

(3班・委員)

結局、中学校になるとセクハラやパワハラ等、世間でいろいろと騒がれている盗撮問題等もあり、着替えが嫌だから中学校になると泳がないとか、授業に参加しないという子どもの話も聞いたのですが、中学校では一応授業としてやっているということでしょうか。

(副会長)

ニュース等によると、そのような傾向の地域も出てきているということで、心配も含まれているのかなと思いますが、もう少し詳しく石巻市の実状等について、分かりますか。

(学校教育課)

プールの授業の実施状況ということでよろしいでしょうか。成長期の子供たちでするので、そのように気にするところはあるかもしれませんが、基本的に6月末から9月はじめまで、水泳の授業はカリキュラムの中に入れて行っております。それからセクハラ等につきましては、ここは教員側に対しコンプライアンス遵守について、しっかりやるようにという指導を継続して行っていくというところでございます。

(1班・委員)

第1節に関しまして、学校の廃校統合に伴って廃校になった学校の利活用はどのようなになっているのか、という質問が出ました。

(学校管理課)

まずは廃校の現状について御説明を申し上げますと、令和5年3月末に東浜小学校、荻浜中学校の2校が閉校になり、令和6年度をもって中津山第一小学校、中津山第二小学校の2校が廃校になりました。現在、こちらの跡地利用については、決まっていないという状況でございます。廃校施設の利活用については、やはり地域住民の様々な思いが詰まった施設であり、地域のシンボリックな存在ということも踏まえ、まずは地域住民の意向等を確認し、跡地利用を検討していくということが基本的な流れであるかと思えます。しかし、まちづくり全体という観点からしますと、教育委員会だけの対応では難しい面があり、例えば地域振興や産業振興であったり、全体を俯瞰する観点というのが必要になってくるのかなと思いますので、引き続き、教育委員会だけではなく様々な部署と連携をしながら、検討をしていく必要があると考えているところでございます。

【第6章 第1節～第2節】

(3班・委員)

「市政への関心」の部分につきまして、18歳から29歳までの若年層では45.2%と、低いという話がありましたが、それをどのように関心を高めていくのか、具体的な取組について教えていただければと思います。

また、財政調整基金について、取崩し目標より下回っているとはいえ、減ってきているのは間違いないので、これが将来なくなったらどうなるのか、可能であれば教えていただきたいと思います。

(秘書広報課)

まず6章の目的である、信頼される行政運営の推進のため、何をするのかというところですが、まずは信頼を得るために、市民と市の相互理解を促進すること、それから、市民サービスの充実を図ることによって、市民の信頼が得られると考えております。

その中の相互理解を促進するというところですが、現在行っている広聴事業、市民ニーズを把握するという事業、それから、市政情報を発信し市民と行政の共有の推進ということで、広報を力強くやっていきたいと思っております。

市民サービスの利便性向上という点については、オンライン化の促進ということで、手元で申請ができるような形を進めようと思っております。

市民ニーズの把握、市政情報の共有推進、オンライン化による利便性の向上という3点によって、信頼を高めていきたいと考えてございます。

若者という視点につきましては、ターゲットを絞りこみ、SNSだけではなく媒体によって、伝わりやすいものが異なるため、相手に理解してもらえる・伝わるという力を、発信側が身につけていきたいと思っております。SNSの発信についても、相手に伝わらなければ、それ広報したと言えないので、伝わるような取組をしていきたいということで、現在、職員広報研修のほうを進めているところでございます。

(財政課)

続きまして財政調整基金の残高ということで、昨年もいろいろ御意見頂いたところですが、今年度の特徴としまして、一時的なふるさと納税という財源を生み出しておりますが、安定的な財源である市税の本市の歳入割合で言いますと、市税は22%となっており、ここの部分を安定的な財源として確実に徴収しながら、歳入の確保を図っております。

歳出につきましては、実施から3年目になります事務事業評価を基に、少しずつ見直しを進めたいと考えておりますが、昨年と今年度の予算比較でいきますと、いわゆる物価高によって業務委託料が予算比較で13億程度増額しております。また、コロナ明けのサービス給付等、どうしても義務的にかかる給付の費用8億程、

予算比較として増額となっておりますので、住民サービスの急激な低下を招かないように、一方で、削減できる部分を見つけながら歳出の縮小化に励んでいきたいと思っております。

また、公有財産の処分ということで、利用頻度が低かったり、民間と競合しているような施設等は、積極的に廃止譲渡するという取組を進めて、本市の災害等に備える財調の規模である20億円の確保に努めてまいりたいと思っております。

(政策企画課)

若者世代への関心について、補足させていただきます。若者世代に市政参加していただき、興味を持っていただくことが重要だと思っておりますので、現在行っている政策コンテスト等に積極的に参加頂けるような環境が必要だと思っております。その中で、最近多くなっているのが大学生のフィールドワークの場所として、石巻市が活用されたり、あるいは積極的にロゴフォーム等を利用し若者を対象にアンケート調査を実施し回答を得る等、若者世代との関わりを今は築いているところですので、そこから広がりを見せていければいいのかな、というふうには思っております。

(1班・委員)

若者が市政に参加しにくい状況ということで、動く市長室等、いろいろな取組を行っているとは思いますが、それらの開催方法について、例えば平日なのか日中なのか、若者や勤労者が参加しやすい夜の時間であったり、土日とか、開催方法について工夫することで、若者や勤労者が参加しやすくなるような体制づくりを今後も努めていただければと思います。

また、現在の財調残高がどれくらいあるのか、教えていただければと思います。

(財政課)

財政調整基金の令和6年度決算ということで、直近の数字としましては65.9億円となっております。

(秘書広報課)

夜間開催については、令和6年度に初めて蛇田地区にて開催いたしました。蛇田地区の参加者数を前年度と比較しますと、20人程、率にして2.7倍多くなりました。ターゲットを若者・勤労者に絞るとなると、おっしゃる通り、夜間開催、休日開催というものが効果的だと思っております。現在、他地区に関しましても、地域課題を多く聞かせていただいているところですが、参加者はやはり区長さんが多いという形になっております。どのようにしたら、両方が成り立つような開催方法が実現できるのか考えていくことがこれからの課題でございます。今年度の開催についても蛇田地区となっており、まずは都市部から広げつつ、効果を見ていきたいと思っております。

(2班・委員)

LINEの友達登録の件になります。頻繁に通知が鳴って煩わしいので、ブロッ

クしているという方も結構いるのではないかと、という話が出ました。もし、ブロックしている方の人数が分かるのであれば、参考までに教えていただきたいと思います。

(秘書広報課)

LINEのブロック数につきまして、確かにLINEの登録者数も増えておりますが、ブロック数も増えてございます。去年は1,200件程のブロック数になっております。通知につきましては、各課から掲載の要望を受けているところであり、当初は週2回お昼と夕方の発信の形を考えておりましたが、最近は毎日、お昼と夕方、そして緊急的に熊の発生や災害情報等については随時発信するという形になってございますので、御理解をお願いしたいと思います。

(副会長)

今の質問の中に、若者のいろんな興味関心とか、政治に対する信頼等、たくさん話題が出ましたが、参加してもらうためのいろんな工夫も大事ですが、一生懸命参加していただくような手だてを考えると、恐らく受け身になってしまうだけだと思います。もしかしたら視点を変えて、参加したくなるような仕掛けを新たにつくっていかないと、努力しても効果にあらわれてこない可能性があるのではないかと、いうことを委員の皆様からの御意見を聞きながら感じておりました。

第2期 復興創生期間に係る対応方針

地方創生の取組

(2班・委員)

グリーンスローモビリティについて、施策1がD評価、施策3がC評価になっていますが、定量評価が◎、定性評価が○となり内部評価がAとなっています。グリーンスローモビリティは私も一度、見たことがあります、実際に動いているところは見れず、マニュアルを読んでも動かせない状態を観察したことがあります。これは一体、どういうものなのか、稼働実績等も多くなく、計画に載っていること自体ずっと不思議に思っていたので、この機会にお聞きいたしたいと思います。

(SDGs 移住定住推進課)

グリーンスローモビリティ事業についてですが、令和2年度に本市がSDGsモデル事業として国に採択され、その際にモデル事業として掲げた事業でございます。事業内容は、ハイブリッド車のリユース品を使用した電動カートを2台製作し、1台は蛇田のぞみの地区に、もう1台をあゆみ野地区に設置いたしました。

電動カートの維持管理や運用部分については、カーシェア協会に委託しており、まずはカーシェア協会の会員になっている方にご利用いただいているような状況となっています。しかし、ドライバーは、ボランティアドライバーを募集し、その方々に運転していただくことから、予約制という運用方法をとっており、使いたいときに使えないという理由等もございまして、利用者数が伸び悩んでいるような状

況となっております。

(2班・委員)

実際に動かなかったところを私は見ておりまして、行政からお金が出ていることを考えると、これはメンテナンス等を含めて、動かない、使えないというのは問題ではないのかな、と個人的には思うのですが、いかがでしょうか。

(SDGs 移住定住推進課)

おっしゃられるとおり、バッテリーの不具合がございまして、使えない期間がしばらくございました。そちらの修理をするまでに期間が要してしまい、使えない期間があったために、利用者数も伸びなかったということも確かにございました。

(副会長)

行政ではこのような、「やらなくちゃいけないのでやっている」というような施策事業がたまにあります。これらについても、適切に見直していく必要があるのではないかと、というような内々の意見も含めての質問だと思います。

(2班・委員)

最後に、内部評価がAになっている理由について、改めて確認させていただいてもよろしいでしょうか。

(政策企画課)

こちらの地方創生の取組の評価につきましては、KGIの達成度によりまして定量評価をしております。KPIにつきましては、去年も御指摘がありましたとおり、取組に関連がないのではないか、説明がつかないのではないか、という指標の設定になっております。こちらは、現在進めております後期計画の中では、目標に向かって達成するための将来像を描いてロジックモデルを組んでおりますので、指標設定につきましては、後期計画で改善をしていきたいと思っております。

(3班・委員)

人口戦略推進ということで、石巻市の将来性を考えたときに、少子化問題というのは、最優先で取り組まなければならない課題だと思っております。そこで私は「女性の方がなぜ結婚したくないのか」という点について、データを取りました。この中で、「結婚するとこんなに楽しいことがあるんだよ」という女性の方や、ご夫婦言葉を全部羅列しながら、結婚に夢を持てるようなことをやりましたので、市民みんなで取り組んでいく大事なことはないかな、と思っております。実際にこのような集まりを開いても、女性は本当に集まりません。これはどこがやっても同じで、商工会議所や行政で様々なことをやっておりますが、難しいため、いかにしたら人が集まるのか、その方法を今考えております。ぜひ皆さんのお知恵も拝借できればというふうに思いますので、よろしくお願いします。

(副会長)

前回、市民からも同じような御意見ありましたが、今後、参考意見として活かしていくということでよろしいでしょうか。ありがとうございました。

4 その他

政策企画課より、「委員評価表の提出について」説明。

5 閉会あいさつ

(副会長)

膨大な資料を、限られた時間でコーディネートされる委員さんを中心に、熱心に御討議頂き、令和6年度の評価について、委員それぞれの立場から十分に討議されたことと思います。御意見については、限られた時間で回答いただくということで、大変申し訳なかったのですが、委員評価表のほうに書いていただいて、石巻市がさらによくなるための評価になればいいなと思います。本当に2日間、ありがとうございました。

石巻市総合計画推進会議委員人簿

No.	氏 人	所 属	備 考
1	阿部 隆	特定非営利活動法人 石巻市スポーツ協会	出席（途中参加）
2	阿部 貞子	牡鹿地域まちづくり委員会	出席
3	姥浦 道生	東北大学	欠席
4	遠藤 一恵	石巻市女性活躍推進会議	出席
5	大槻 敏也	雄勝地域まちづくり委員会	欠席
6	大森 憲市	石巻市PTA協議会	欠席
7	尾形 輝雄	石巻商工会議所	出席
8	木村 亜梨沙	一般社団法人 石巻青年会議所	出欠席
9	木村 民男	石巻市子ども・子育て会議	副会長 出席
10	木村 美保子	特定非営利活動法人 いしのまきNPOセンター	欠席
11	後藤 宗徳	一般社団法人 石巻観光協会	出席
12	加納 美雄	いしのまき農業協同組合	出席（途中退席）
13	齋藤 義樹	特定非営利活動法人 いしのまき環境ネット	欠席
14	佐藤 尚美	北上地域まちづくり委員会	欠席
15	庄子 真岐	石巻専修大学	会長 欠席
16	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	欠席
17	高橋 京子	石巻文化協会	出席
18	齋藤 光	河南地域まちづくり委員会	出席
19	千葉 照彦	桃生地域まちづくり委員会	出席
20	野呂 拓生	東北福祉大学	出席
21	花岡 徹	石巻金融団	欠席
22	林 久善	社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会	出席
23	伏見 不二雄	石巻市町内会連合会（前会長）	出席（途中参加）
24	三浦 悠	株式会社 街づくりまんぼう	欠席
25	山内 隆夫	河北地域まちづくり委員会	出席

オブザーバー

1	畑山 作栄	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所	代理出席
2	武田 健久	宮城県東部地方振興事務所	代理出席
3	鐺木 祐人	総務部総務課 法制企画官	出席

令和7年7月3日現在（敬称略）